

## 平成23年度第1回四街道市みんなで地域づくり推進委員会 会議録

### 【開催日時等】

<開催日時>

平成23年6月23日（木）15:00～17:30

<開催場所>

四街道市役所こども保育課2階会議室

<出席者>

（委員）庄嶋委員長、大橋委員、相川委員、國生委員、原委員、大沼委員、江口委員、猿橋委員、岩井委員

（事務局）宇田市民活動推進室長、齋藤副主査

（みんなで地域づくりセンター）NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ（NPOクラブ）勝又副代表理事、工藤コーディネーター

<傍聴者>

1人

### 【次第】

1 開会

2 委員長挨拶

3 議事

(1)平成22年度みんなで地域づくりセンターコーディネーター業務報告

(2)平成23年度みんなで地域づくりセンターコーディネーター業務計画

(3)平成23年度（4月・5月）みんなで地域づくりセンターコーディネーター業務報告

(4)「みんなで地域づくり」推進のための施策の進捗状況

4 報告

(1)平成23年度地域づくり活動助成事業申請状況報告

(2)その他

5 その他

### 【配布資料】

資料№1・・・平成22年度地域づくりセンターコーディネーター業務委託完了報告書

資料№2・・・平成23年度地域づくりセンターコーディネーター業務委託企画提案書

資料№3・・・平成23年度4月・5月地域づくりセンターコーディネーター業務報告

資料№4・・・平成23年度地域づくり活動助成事業申請状況

\*追加配布資料

・「みんなで地域づくり」推進のための施策の進捗状況

・みんなで地域づくり推進委員会開催予定

## 【会議経過】

### 1 開 会

【事務局（宇田室長）】

定刻になりましたので、ただ今から平成23年度第1回みんなで地域づくり推進委員会を始めます。

現在のところ、7名のご出席です。

定足数は過半数の5名ですので、会議は成立いたします。

それでは委員長からご挨拶いただく前に、会議公開の可否についてお諮りいただいた後に、ご挨拶を頂戴いたしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【庄嶋委員長】

それでは、挨拶をさせていただく前に、この会議、原則公開ということになっておりまして、前回のような助成金の審査が入ったときは非公開ということになりますが、今回はそのような案件はありませんので公開ということによろしいですか。

【委員】

はい。

【庄嶋委員長】

はい、それでは公開とします。

【事務局（宇田室長）】

はい、それでは傍聴人に入室していただきます。

（傍聴人入室）

### 2 委員長挨拶

【事務局（宇田室長）】

それでは、次に、第2、委員長の挨拶、よろしくお願いします。

【庄嶋委員長】

皆さんこんにちは。

今日は今年度に入って1回目のみんなで地域づくり推進委員会となります。

我々が委嘱されたのは昨年10月からですが、年度的には今日から2か年目に入ることになるので、数え方も平成23年度の第1回というような扱いになります。

思い起こしますと、前回は昨年度の第4回目の委員会で、地域づくり活動助成事業の審査を行いました。皆さん忘れられないと思いますが、日付が3月10日の木曜日に行っていました。

その翌日に東日本大震災が発生したということで、偶然ですけども前の日に会議を開催したことで、助成事業の審査が滞りなく終わったのですが、その翌日、非常に大きな出来事が起こったということになります。

その後、皆さんそれぞれいろいろな場面で対応されていると思いますが、本日いただいている資料などを拝見しますと、みんなで地域づくりセンターでも防災講座などが素早く開かれるような展開なども見られるようで、今日は、その辺りの報告も非常に楽しみにしております。

震災という非常に大きな出来事がありましたが、正に地域づくりというものが要望されている、そういう事態ということを再認識させるような出来事だとも思いますので、そういったことも踏まえて本年度のみんなで地域づくり推進委員会を進めていきたいと思えます。

### **3 議 事**

#### **【庄嶋委員長】**

それでは、ここから議事に入らせていただきます。

#### **(1) 平成22年度みんなで地域づくりセンターコーディネーター業務報告**

本日は議事として、主に昨年度の報告、本年度の予定となっておりますが、昨年度第3回目の委員会の時に、委員会自体の役割を、皆さんで議論して確認しました。

四街道市が進める「みんなで地域づくり」の施策に関して、我々も見守っていこうということで、毎年度取り組まれる事業が「みんなで地域づくり指針」に沿って、どれくらい進捗しているかを見ていこうということがあります。

また、指針の中で位置付けられたことで設置されたのが「みんなで地域づくりセンター」で、センターの活動についても、我々が市民を代表して見守っていこうということで、今日は今年度の初めになりますので、センターの事業、地域づくり施策について、昨年度の報告と今年度の計画を審議していきたいと思えます。

それでは、最初に昨年度のみんなで地域づくりセンターのコーディネーター業務報告について、事務局からお願いします。

#### **【事務局（齋藤副主査）】**

事務局よりご説明します。

みんなで地域づくりセンターは、昨年9月より千葉のNPOクラブへコーディネーター業務の委託を行いまして、地域課題の解決に向けた取り組みを進めてまいりました。

地域の情報収集、把握に始まり、市民からの相談受付、市民団体へのヒアリングなどを通して課題の発掘などを行いまして、その取り組みに対する事業を進めてまいりました。

詳細な取り組みにつきましては、資料1をご覧くださいとともに、本事業の受託者でありますNPOクラブの勝又さんよりご説明させていただきます。

#### **【NPOクラブ（勝又）】**

NPOクラブの勝又です。

よろしく願いいたします。

それでは資料1に基づいて、平成22年度の地域づくりコーディネーター業務についてご報告いたします。

事前に資料をお渡ししてあり、ご覧いただいていると思いますので、大まかなところでお話しいたします。

まず、事業全般について、平成22年度につきましては、昨年9月から業務を受託ましてオープンということで、期間としては7か月間でした。

その期間でセンターを作っていくということで、まず「みんなで地域づくり指針」にある内容や、センターが地域の課題を解決するために地域づくりの主体となる様々な団体の情報交換、交流により、連携、協働を進める拠点となることを求められている、ということをも3名の新しいコーディネーターと確認しながら事業を進めてまいりました。

センター自体、最初は情報もありませんでしたので、まず、場づくりとして、情報収集、提供に力を入れ、各機関、団体の方に情報の提供呼びかけチラシを配布して、情報をセンターに持ってきていただく活動をしてまいりました。

また、センターからの情報の発信としては、センターニュースの1号から3号、3月の後半になって着手しましたが、ブログやメールマガジンによるセンターの情報発信を行っております。

センターに集まる沢山のチラシがなかなか減らないという声も聞きますので、センター事業を続ける中で、センターにチラシを置くことで情報発信になり、来所者数を増やしていくことにつなげるとともに、センターからの情報発信は勿論のこと、団体の方からの情報発信の場として役立てていくことを、次年度の課題として考えております。

また、センターの役割の大きなところで、資料No.1「2. 各業務の実施内容(1) 地域課題への取り組みのプロデュースに関すること」については、事務局からも説明がありましたように、相談やヒアリング、センター来所者の声の中で、課題を把握して投げかけたりする中で、意見交換や情報交換の場を持っていこうということで、一つは地域づくりサロンとして「ワンデイシェフの魅力」を開催して、その後、勉強会を3回行いました。

現在は、その中で地域のコミュニティ対策にもなる日替わりシェフの店を作ろうというグループが立ち上がって、準備を始めています。

今後、センターでは、そのグループの活動をサポートしていきます。

もう一つは、各自治会の方がセンターに来所した際のヒアリングの中で、いろいろな悩み、課題があることが把握できたので、自治会の情報交換会を1月と3月に2回開催しております。

9月から3月までの期間でしたが、このような活動の中で、地域づくりサロンが地域の課題に向けた情報交換、意見交換をする場として役立つことができるのだということを感じました。

今後については、課題を継続して取り組めるように、地域づくりサロンから立ち上がったグループをサポートしていき、また、沢山ある地域の課題を、どのように取り組みの形

にしていくか、その前段で地域づくりサロンとして、場をどのように設けられるかということを考えていきたいと思えます。

相談受付については、コーディネーターも研修をしながら対応しており、受けた相談については、コーディネーター3人、あるいはNPOクラブのメンバーと共有しながら、こういう場合はどのように答えたらいいだろうかということ、ひとつひとつ丁寧に進めてきております。

資料No.1の1ページの後半から、各業務の実施内容については、簡単に触れておきます。

まず、(1)「地域課題への取り組みのプロデュースに関すること」として、地域づくりサロンを行いまして、まずひとつとして、「ワンデイシェフの魅力」の集まりを11月17日に開催し、木更津の先行事例として「ワンデイキッチン&カフェKANDENCHI」の方にお話をさせていただきました。

その後、次の回では実際に木更津のお店まで行って、実際に食して、また運営についてお話を伺いました。

現地視察後、アンケートなどで、同様の取り組みを行いたいという方がおり、12名の方がグループとして立ち上がり、3回目、4回目の集まりでは、これから準備をしていこうということが確認され、今年度に続いています。

地域づくりサロンのもうひとつとして、自治会の情報交換会も、1月18日が14名、3月9日が20名の方が参加して、今後も継続して行っていこうということで、今年度も自治会の情報交換会を開催することになりました。

(2)「地域づくりを担う主体のネットワークに関すること」については、これは地域づくりサロン、セミナーやヒアリングなどを通してネットワークを作っていきたいと思っています。

(3)の「地域づくりの情報の収集、把握、共有及び提供に関すること」については、先ほど申し上げたとおりです。

(4)の「地域づくりを担う主体からの相談に関すること」については、これまでみんな地域づくり推進委員会の中で相談の内容などを報告してまいりましたが、ひとつひとつ丁寧に応えていくということと、(3)の情報収集と関連して、ヒアリングを進め、いろいろな団体の活動について知る中で、コーディネーターが相談に応える力も付けていこうということを行っております。

ヒアリングについては、資料No.1の3ページに詳細が記載されておりますが、センターに情報を提供してもらっただけでなく、みんな地域づくり推進委員会の中でも是非ヒアリングをしてください、というお話もありましたので、特に1月、2月、また今年度に入ってから団体、公共機関や関係機関に連携協力の依頼や活動内容などについて、ヒアリングを進めております。

そのヒアリングで相談を受けたり、そこで出された課題をセンターで検討することにつながったりしております。(14:10)

4 ページの（５）「市民活動情報サイトの管理・運営に関すること」につきましては、年度終盤になりましたが、登録呼びかけ、活動の支援講座などでサポートしています。

それから（６）「上記の業務執行のための各講習会の実施に関すること」については、広報セミナー、「初めてでもOK「市民活動団体の会計セミナー&個別相談会」」を開催しております。

最後に（７）「地域づくりコーディネーターの職務の執行に必要な技能の習得と研修」については、コーディネーターにとっては、新しくセンターの事業、業務を始めるということで、「みんなで地域づくり指針」などの内容の把握はもちろん、最初はチラシの作成や企画書の書き方、企画の進め方など実践する中で力を付けていこうということで取り組んでいます。

また、他市のセンターや団体などについて勉強するというので、県の講座や研修等に参加しています。

（８）として、４校の中学校の職場体験受け入れも行いました。

それから（９）その他として四街道市地域づくり写真展を、県のNPO活動写真展とあわせて行いました。

当時は、県のNPO活動写真展以外での参加呼びかけ期間が短く、数は少なかったのですが、次年度の活動につなげていきたいと思えます。

他、資料としてセンターニュース、各事業のチラシなど添付していますので、ご質問などありましたらお願いいたします。

#### 【庄嶋委員長】

はい、ありがとうございます。

まずは平成22年度のみんで地域づくりセンターの業務報告でした。

皆様からご質問、それから感想でも構いません、全員一度は発言していただきたいと思えますので、思うところやご質問があればお願いします。

質問でも、感想でも、お褒めの言葉でも構いませんので、いかがでしょうか。

相川さん、どうぞ。

#### 【相川委員】

私は、自治会関係で自治会の活性化を主眼として意見交換会に参加させていただきました。

そこで感じているは、自治会というのは、一番大きな組織でありながら何もやってこなかったというのが実態ではないかと思うのです。

それがちょっとでも進めばいいかなと思っているのですけれども、現状は、自分たちの活動の状態と、今どういうことで困っているかという話し合いを行いました。

最近になってテーマ一つに絞って、例えば防災関係をどういう具合に進めていこうかという話ができるような状況になってきました。

これは頻りにセンターが意見交換会を開催してくれたことによると思えます。

それから、集まった人もずっと意見を聞いていると、光る人が一杯いるのです。

私は正直に言って、ろくな者は来ないだろうと思っていましたけれども、やはりそれなりに光る人がいるのです。

だからこれは続けていって、うまく舵取りすると、災害の組織の活性化が進むのではないかなという気がしました。

以上です。

**【庄嶋委員長】**

はい、ありがとうございます。

他には、いかがでしょうか。

今の話のように、相川さんが地域づくりサロンの自治会運営の方に参加されているということもあるので、それぞれ参加した立場で、こうだったよということ、評価ということでも構いません。

**【江口委員】**

「まじゅりんこ」にコーディネーターの方が3人いらっしゃって、一緒に私たちとサポートさんたち、ボランティアの人たちと活動する機会が2回ほどありまして、また、1月、2月の中では、例えばどんぐりの森にも行ってらっしゃいます。

そこには僕らがセンターに期待してきたコーディネートという件でお話しさせていただくと、実を言うと今から7年前から、「まじゅりんこ」や四街道こどもネットワークなどがネットワーク組んで、いわゆる子育てに関して団体でニュースなどを出してやっていこうよという話し合いを持ったのですが、ニュースを1回出したきりで、後は寂れてしまいました。

どういうことかということ、それぞれが自分たちの活動だけで必死になって、意識としてはつながって、みんなで力を合わせてしていこうという意欲はあるけれども、実態として実践化になかなか結びついていかないというしんどさみたいなものがあります。

その辺をみんなで地域づくりセンターに全部やって欲しいということではないのですが、この1月、2月各団体を回られて、少なくともこの関係の団体いくつか回られてみて、どのような課題意識を持っておられるのか、それからセンターの役割であるコーディネートの役割として、どういう着眼点が得られたのか、お聞きしたいのです。

**【庄嶋委員長】**

お答えいただけますか。

**【NPOクラブ（勝又）】**

具体的にいいますと、これから子育て支援をしている団体の情報交換会を開こうと検討をしております。

コーディネーターが団体にヒアリングに行く中で、江口委員からもお話がありましたよ。うなことも伺って、それぞれの団体がつながることによって出来ることとか、活動で連携できる場所、実際にそういうことをして欲しいという声も他の団体からありました。

センターとしてはまず情報交換会を開こうということで、現在、日程がある程度決まって、これらか呼びかけなどの準備をしていこうというところです。

**【江口委員】**

ありがとうございます。

それからもう一ついいでしょうか。

実を言うと、「まじやりんこ」もニュースをずっと置いているのですが、置く場所が無くなってきて、つまり減っていかないというか、センターに来た人たちがニュースをもっていない、というのを感じています。

常々発信しているのですけれども、置く場所無くなってしまふなと思いながら置いてきたりしています。

その辺のことなどをお聞きしたいのですが。

**【NPOクラブ（勝又）】**

それは本当に課題にしています。

まだ出来ていないことだと思いますが、本当に興味を持ってくださった市民活動団体の方を中心に、情報を沢山持ってきていただいたということで、これから次年度の課題の中で、本当に多様な人にセンターに足を運んでいただくということで計画してやっておりますので、センターに来たらそういう情報を得られる、活動団体の人ではない方にも来ていただけるようにということを考えながらやっていきたいと思っています。

**【庄嶋委員長】**

皆さんからいい知恵などがあれば提案していただきたいと思います。

他にいかがでしょうか。

猿橋さん。

**【猿橋委員】**

私は、NPO法人ネットワーク大地に属していますが、市内活動団体のご紹介ということで、どういう活動をする団体なのか、具体的な活動についてヒアリングしていただきましたけれども、これはすごく前向きの活動をしていただいているなというように思っております。

活動はセンターができて間もないことですから、これだけ積極的にやっていただけるのはすごく評価させてもらうところです。

一方、江口委員の話とも通じるのですが、共通課題を、我々が個別の団体、市民だけでなく、それぞれの団体の活動が少しずつオーバーラップしているわけなので、例えば子どもをターゲット、目的とした活動を、協働でやったらどのような広がりが見られるのかとか、どのような活動ができるのかとか、というようなこともこれからやっていただけたらなと思います。

というのはその中では情報発信だけではなくて、これから協働参画を一緒にやっていると、その協働参画のためにコーディネートしていただけると、ますます市民活動の広が



りが出来てくると思いますので、そのような活動についてはこれからやっていただけたらなと思います。

また、みんなで地域づくりセンターは発足のところから、他の市町村とは違う位置付けであるということが、果たしてそういっているのかどうかということ、あるいは「みんなで地域づくり指針」との絡み合いというのをレビューしながら進めていただければありがたいなと思います。

そのためにはセンターあるいは市役所、担当課だけではなくて、それ以外の方とのコミュニケーションを取りながら進めていくのもいいのかなと思います。

あと、個別に見ると、私たちは毎月ニュースレターを更新しているのですが、こちらの問題だと思いますが、置いていただくというのはありがたいけれど、毎月チェックしているのですが、やはりなかなか捌けない、読んでもらえないというところが、どのようにしたらいいものかなと考えております。

今は無駄になってしまうかもしれませんが、毎月ニュースレターを10部ずつ置いているのですが、せいぜい2、3部くらいしか減っていません。

基本的には団体の力の問題が主だと思うのですが、センターに並べれば情報提供であるということではなく、何かいい知恵があったらお考えいただけたらなということを感じとして述べさせていただきます。

**【庄嶋委員長】**

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

**【岩井委員】**

私も先週の土曜日、福祉作業所紹介・販売フェア「大きなテーブル」に行ってきましたが、全体的な印象として、声もよく出ていたし、よくやっているなという感じを持ちました。

立ち上げて半年くらいになりますけれども、やるからにはお金がかかっているわけですから費用対効果、どんな効果があったかを表してもいいのではないかなと思いました。

**【庄嶋委員長】**

何かお答えありますか。

**【NPOクラブ（勝又）】**

「大きなテーブル」についての費用対効果でしょうか。

**【岩井委員】**

全体についてです。

**【事務局（齋藤副主査）】**

地域づくりというものが、なかなか数値で表せないものなのかなというところがあります。

人が増えれば地域づくりがうまくいっているのか、チラシ配られたらそれでPRができているのかというのは、また別の問題だと思います。

そういったものをどう検証していくのかというのも、こういった場で指標たるものを見つけていけたらなと思っています。

**【NPO クラブ（勝又）】**

江口委員お話にもありましたように、チラシについては、本当に悩みの種です。

置いていただいたのに持って行っていただけないということは、そういうのを求めていらっしゃる方がそんなに沢山まだいらしていないということで、これからの相談や団体のヒアリングの場などで発信していくことと、違う方法としては、例えばセンターニュースに載れば行政回覧として回りますので、センターニュースやブログに団体の方の情報を載せて、団体の方の情報発信をサポートできればと考えています。

**【庄嶋委員長】**

センターに来所される方の目的を分析したとしたら、チラシ目当てに来るという方はあまりいないという感じなのではないでしょうか。

**【NPO クラブ（勝又）】**

打ち合わせスペースで会議する方や団体の方が多いですが、なかには情報収集で沢山取っていかれる方もいらっしゃいます。

また、先ほどの「大きなテーブル」では、何かボランティアできることはないか、といっている方もいらっしゃいますけれど、まだまだ多くはないということだと思います。

**【庄嶋委員長】**

既にあの場所を知っていて打ち合わせの目的で利用される方が多いかなという感じでしょうか。

**【NPO クラブ（勝又）】**

そうですね。

あとはイベントをやったときにいらした方などです。

**【庄嶋委員長】**

他に、まだ発言されていない方いらっしゃいますか。

**【大橋委員】**

センターは、アンテナがあって、興味があったり、前向きな考えや前向きな思いがある方が、利用していると思います。

そういう人たちは前向きなのですけれども、私の周りの若い人たちが、四街道は嫌いなわけでもないし、四街道でいろいろ活動もしたいし、地域で何か役立つことをやってみたいという思いはあるらしいのですけれども、どういうふうに発信して、どこをどういうふうにやったらいいかわからないという話を言われていたので、みんなで地域づくりセンターがありますよという話はしたのですけれども、どうしても昼間は働いているし、土日く

らいしか休みはないので、センターを利用するときに、仕事を終わって帰ってくると、やはり 8 時近くになってしまい、センターが開いていれば、いろいろと相談したりしたいとは聞いていますが、今のところ活動時間というのは大体 9 時から 17 時ですか。

**【NPO クラブ（勝又）】**

火曜日から金曜日は 20 時半までです。

震災の影響で当分の間は夕方まででした。

**【大橋委員】**

遅い時間まで開いているというのは、まだ知られていないところもあるので、もうちょっと一般に知られるような形を取ればなと思います。

実は私、今回フリーペーパーを作ったのですけれども、四街道の地域活性化のために 20 代、30 代の方たちに興味を持ってもらうような紙面作りをしたのですが、意外や意外で、手に取った人が高齢者の人や時間のある方が多くて、若い人たちにほとんど見てもらえなかったということがありました。

これからの四街道市を担っていく若い方たちが、全然四街道市に対して興味が無いというわけではないので、もっと四街道市の地域づくりのために何か協力したいのだけれども、どのように協力していったらいいかとか、どういう場所にどういう風な話を持っていったらいいかという、何かちょっとしたきっかけみたいなものが、全然情報として自分たちのところに入ってこないの、その辺、何とかうまく若い人たちにこういったところがあるというのをアピールできるような情報など、何か出来ないかなと思っています。

市政だよりなどに載っていると思うのですけれども、若い人たちはほとんどそういうのは読まないし、見ないと言っています。

ただ思いとしてはみんなですと何かやっていきたいというのはあることはあります。

今回私が作ったフリーペーパーでは、そのように言われていたので、今回みんなで地域づくりセンターの方も似ているところがあるのかと思いました。

前向きにやろうとしている NPO 団体などは、興味を持ってアンテナは張り巡らされているので、相談や様々なところで話を聞く中で、こういうセンターがありますよと分かると思うのです。

何とか若い人たちにこういうセンターがあるということがわかるといいなと思います。

**【庄嶋委員長】**

事務局の方、何かありますか。

**【事務局（齋藤副主査）】**

どうしても、広報ということに関しては、ツールに限られるという中で、皆さんこの委員会の委員ですので、例えば大橋委員が、その熱い思いのある方を是非連れてきていただきたいです。

若い人たちの口コミの力であったり、発信力というのはすごいと思います。

その熱い人たちの輪を少しずつでも広げていくことが出来ると思うので、広報の力も大きいと思いますが、その熱い人の一人が生み出す力はもっと大きいと思うので、是非そういう熱い方と一緒にセンターにお越しただいて、お話をお聞かせいただけたらと思っています。

今回の「大きなテーブル」もそうですが、一つのきっかけが事業につながることもありますので、是非、こういった委員会を開いているわけですので、委員の皆さんもそういった方がいらっしゃったら是非ご紹介いただけたらと思います。

#### 【猿橋委員】

個別の話になってしまいますが、フリーペーパーを配布する場所として、活動団体あてに、どこかのポストに入れば、全員に広げられるようなやり方であると思うのです。

今のフリーペーパーいただければ、私の会で100世帯くらいは配れますので、是非いただきたいなと思います。

地域づくりという共通の面で会員に配って何も不思議はないようなもので、ヒントとして、社会福祉協議会で同様のポストがあります。

団体のポストに入れておくと、全部に配布する部分とその団体に知らせるものとあります。

個人的な興味ですが、フリーペーパーを見たいなと思います。

同じ思いの人がいるとすれば、いただければこちらにいただきたいし、そういった団体がいくつもあれば、そのこの団体には配布して読んでもらえるという広がりになるのではないかと思います。

#### 【大橋委員】

フリーペーパーの話が出たので申し訳ないですけど、行政で公民館やいろいろなところに置いてもらったり、商店街にも置きました。

ところが手にするのは、割と高齢の方で、四街道に昼間いる方になってしまうと、ちょっと若い人たちは外にでてしまっていて、ほとんど手にする機会がないのです。

現在思いがあるのだけれども、今は、昼間ほとんど外に出ているので、みんなで地域づくりセンターがありますよという話をしました。

#### 【庄嶋委員長】

若い人への対応や、チラシがはけない話など、少し後回しにして、それ以外にご感想とか質問とかあればお願いします。

國生さん。

#### 【國生委員】

開設してから半年、わずかの間にたくさんの活動していただいて素晴らしいなと思っています。

先ほど、子育て支援団体の情報交換会を開く予定だと伺って、大変楽しみだなと思いますが、同じように福祉系の団体の情報交換会など集まれるようで案外集まれないのです。

誰かが旗振り役をやらないと、みんな日常の忙しさにかまけていて、なかなか集まれないのですが、障害者や高齢者など、枠を超えて四街道の福祉について意見交換をしていく場もとても大事ななと思っています。

同時に環境についても、環境団体は独自で活動されるところが多くて、なかなか横につながりたがらないというのも承知していますが、でもそうであるからこそ、それぞれとても素晴らしいよい活動をしておられますので、ネットワークができて、いろいろな情報が交換されて、大きな活動につながっていったらいいなと思いますので、意見交換会の場を設定していただけるとうれしいなと思います。

**【庄嶋委員長】**

情報交換会とか意見交換会のお話は、このあと話題に取り上げていきたいと思っています。

**【原委員】**

NPO活動写真展の反響や来場した方はどんな方たちがいらしたのか、またその後に、どのような感想をいただいたかなど伺いたいです。

**【庄嶋委員長】**

お願いします。

**【NPOクラブ（勝又）】**

NPO活動写真展は、千葉県が実施しているので、市を超えて団体の情報を掲載できたということ、写真展をやっていますという情報を見て、センターにいらっしゃる方など、センターがオープンして間もない11月でしたが、関心を持っていただけたということがありました。

写真は、1枚で活動の内容が分かるので、よく知っていただけたと思っています。

それとNPO以外のところでは、まだ自治会の方への接点が少なかったなので、参加した自治会は、2自治会でしたが、写真を持ってきていただいた中で、自治会のいろいろなお話を聞けたので、よいきっかけになったと思います。

よりたくさんNPO以外の写真を見ることで、四街道市の地域づくりをやった様々な団体の様子が分かるのではないかと思います。

**【原委員】**

今後も開催する予定はありますか。

**【NPOクラブ（勝又）】**

今年度も是非開催したいと思っています。

**【庄嶋委員長】**

はい、ありがとうございました。

私からの質問で、細かい話かもしれませんが、先程来、情報提供の内容の一つで、団体情報ファイルというのがあります。

NPO的な団体だけではなく、自治会のものも結構あがって、自治会が発行している会報、総会の資料などがあり、面白いなと思ってみたのですけれども、その辺りはどうい

形で提供を求めてきたのか興味があるのですが、いかがでしょうか。

**【NPO クラブ（勝又）】**

センターがオープンしたときに、センターへの情報提供のお願いチラシを作って、各機関などに配布しています。

団体情報ファイルというのは、本来は団体ごとのファイルを作って、全部ファイルに情報を配列していこうということで始めていますので、今のところは、センターに持ってきていただいた情報からファイリングしています。

**【庄嶋委員長】**

例えば全自治会といった感じでより充実、拡張を考えているのでしょうか。

みんなで地域づくりセンターというのが、いわゆる他の市町村のNPO系の団体を応援するセンターというのとはちょっと違うので、自治会や事業者の方々に地域づくりに関わることをされている方にとって、情報ファイルがセンターにあると、すごく充実してくるかと思うので、そのあたり進めていただけたらと思います。

これまでの話題で、例えば、センターに情報、資料を置いてもなかなかはけない、意見交換、情報交換のことで、あるテーマの団体が集まれるようにしたい、若い市民向けの活動、若い市民を引きつけるような部分、そういった話題が出てきたかと思います。

これはセンターの方にだけ対応を求めるといふより、我々の方も知恵を出し合って、こんなやり方があるのではないかということを考えなければいけないのかと思っていますので、この辺、皆さんからアイデア、こんなふうにやったらどうかという意見があれば伺いたいと思います。

全体の時間の関係で今報告していただいたのは平成22年度事業です。

これから我々のほうから出た意見を踏まえたうえで、平成23年度はこんな取り組みをしていきたいと思うので、先にその話を伺ったうえで、新たな課題も含めて議論できたらと思います。

それでは、資料No.2について、お願いいたします。

**(2) 平成23年度みんなで地域づくりセンターコーディネーター業務計画**

**【事務局（齋藤副主査）】**

平成23年度につきましても、昨年度から引き続き取り組んでいる事業につきましても継続して行っていくとともに、その定着を図っていくことを目的にしております。

また、今回の東日本大震災を受けまして、今年度重点テーマとして、「みんなで地域づくり指針」にも掲げてあります、安心安全で暮らせるまちづくりを挙げ、地域コミュニティ、防災ネットワークなどの視点から事業を展開していく予定です。

詳細については、NPOクラブ勝又さんよりご説明させていただきます。

**【NPO クラブ（勝又）】**

資料No.2、情報提供、収集については先程来お話がありますが、もっと情報提供のサポートができるようにというのが課題です。

解決策として次にできることの一つとして、先ほどお話ししましたように、センターニュースに団体から情報を出していただいで掲載すること、ブログも同様に考えています。

また、市民活動情報サイトについても、現在ある程度、決まったフォームがありますが、それをより有効に活用する方法について検討を進めています。

それから情報分野では、今盛んにツイッターが行われていて、あるNPOの人からもツイッターで発信することでホームページへのアクセスが増えたということを伺いました。

センターでも検討して、ツイッターを始めて様々な人に情報を送り、センターのブログを見ていただき、そこからまた市民活動情報サイトも合わせて見てもらおうと考えています。

センターの運営に限らずNPOの広報で、発信してもなかなか届けられないということが課題だと思いますので、皆さんからお話ありましたように、センターが広報の分野で役立っていくために、今はセンターニュースに掲載する、若い人にはツイッターを利用、ブログもまだ市民活動情報サイトに載せている団体の数くらいの登録なので、ブログの数をもう少し増やしていきたいというのがあります。

地域づくりサロンにつきましては、「ワンデイシェフの魅力」で団体が立ち上がっておりますので、団体を支援する中で、地域のコミュニティづくりや、食と農の課題解決のサポートをしていきたいと思ひます。

自治会についても同じです。

自治会の方も昨年度を受けまして、自治会の方、また相川委員、國生委員にもお越しいただいて、今年度も継続して情報交換会を開いていく中で、地域づくりをしていければと思ひます。

先ほど事務局からお話がありましたように、平成23年度の重点テーマの一つとして、今回の震災を受けて「安心して暮らせるまちづくり」を掲げました。

今でも自治会で活動をしているところや、民生委員の方が行っているということがあると思ひますけれども、防災の知識を市民の方が得るといふことと、その中でネットワークを作っていけたらといふことで、防災の連続講座を開催し、5月31日に1回目が終わったところでは、

5月31日の回では、市の担当課を通して民生委員の方にも働きかけをしまして、民生委員30数名、全体で61名の参加といふことで、非常に関心が高いといふことが分かりまして、今後6回連続でやっていきますので、その中で社会福祉協議会や、防災、福祉、国際交流のNPOの方とも連携をして、講座を通してネットワークづくりに寄与できたらいいなと思ひております。

個々の事業については資料No.2の3ページ目からですが、地域づくりサロン、防災に関する連続講座、(2)「地域づくりを担う主体のネットワークに関すること」では、昨年よりも少しずつ様々な形で情報が入ってきたり、団体間の連携が図れてきているので団体へのヒアリング、相談対応、地域づくりサロンなどの解決の場を通してネットワークづくり

をしていければと思っています。

(3)「地域づくりの情報の収集、把握、共有及び提供に関すること」については、先ほど申し上げたとおりです。

今年度新しい取り組みとして、資料No.2の5ページの(8)「上記以外のサービスの考え方」で、センターに多様な人や団体が来て、地域づくりに参加できるような企画をしていきたいということで、先ほど言いました地域づくり写真展も引き続いて行います。

さらに2年目ですので呼びかけの期間をきちんと取って、NPO以外の地域づくりに参加する様々な分野の団体の方にも参加していただきたいと思っております。

もう一つ、先ほど岩井委員の方からご参加いただいたというお話がありましたが、6月17日、18日で福祉作業所紹介・販売フェア「大きなテーブル」を開催しました。

次のページ以降にセンターニュースのご案内とポスターなども掲載してありますが、センターにいらっしゃる方の中から福祉作業所などの紹介ができるということがないでしょうか、というお声もいただいたことがきっかけでした。

NPOクラブでも以前に千葉のセンターで類似の内容で開いたことがあり福祉作業所のそれぞれ活動や売っている商品が、なかなか他の方に知る機会が少ないということで、センターでその紹介や販売しようということで開催しました。

「大きなテーブル」を開催するに当たっては、担当のコーディネーターが一つ一つの団体にヒアリングし、福祉団体間の顔合わせ、準備のために集まっていた中で、団体間のネットワーク、つながりができました。

また、当日は2日間で、あわせて370名程度の方にお越しいただき、大変良かったと思っています。

その中で予想していなかったことでしたが、佐倉市の障害者施設の方が車椅子の方と一緒にこ越しいただき、すごく楽しみにして来てくださったことや、「自分たちの団体、施設でもいろいろなものを作っているのだけれども、どういうものが他で作られているのかを見にきました、といった話や、また四街道市の高齢者施設の方、特養の方が、車椅子の方お二人と来て、お茶を飲んでいかれたり、何かボランティアをしたいという方がいらして、裁縫がすごく上手だということで、「スイミー」という団体で縫製のボランティアの募集をしていたので、そこでマッチングができたということもあり、一般の方に知っていただくことや、団体間の交流ということまでは想定していたのですけれども、その他いろいろな参加の仕方、ネットワークの広がりが出来たと思います。

このあとは、夏休み小学生ボランティア体験などを計画しております。

最後、資料に書いてありますこどもフリーマーケットというのは、案として上がっていますが、まだ具体的には決めておりません。

平成23年度については以上です。

#### 【庄嶋委員長】

今、ご説明いただいたものは平成23年度の予定でしたが、このあと4月、5月の業務



報告があるので6月の途中までは事業が済んでいると思いますので、資料No.3で説明される予定だったもので、あわせて説明された方がいいものについてご説明をお願いします。

**【NPOクラブ（勝又）】**

4月、5月は大きなこととして、震災の影響で夜間が休館ということで、3月からイレギュラーな形でセンターを運営してきました。

6月からまた通常通りに戻ったというところです。

4月、5月は、特に今年度の事業の準備の時期ということで、コーディネーターがヒアリングにいたり、準備を進めたりといったことが多かったです。

地域づくりサロン「ワンデイシェフの魅力」では、今グループが立ち上がって、毎月定例会を開いて勉強会をしています。

センターでお手伝いをすることがあればということで、定例会には、担当していたコーディネーターが必ず行ってサポートしております。

また、地域づくりサロン「自治会情報交換会」は、4月12日に自治会メンバー有志の方と打ち合わせをしまして、6月14日の情報交換会は終わりましたが、年間で4回、それから準備の会として4月12日も含めまして、年間4回開いて情報交換していこうということになっております。

6月14日につきましては、先ほど相川委員からお話がありましたように、東日本大震災を受けて、その時に自治会でそれぞれどういうことをしたか、また実際に東北に支援に行かれた方が、活動を報告させてくださいということがあり、報告も含めて意見交換をしています。

それから資料No.3の2③「ステップアップセミナー」では、会計講座&相談会ということで参加団体は3団体でしたが、会計が全然分からない方が自分の団体の相談内容をざっくばらんに話をされ、参加された方には非常に好評でしたので、同様の形で年内に数人もじっくりと聞く会を進めていきたいと思っています。

「大きなテーブル」については、先ほどお話ししたとおりです。

防災の講座については、連続講座で6回行っています。

1回目終わったのですが、担当コーディネーターが来ておりますので、報告をさせていただきます。

**【庄嶋委員長】**

お願いします。

**【工藤コーディネーター】**

四街道市みんなで地域づくりセンターの工藤です。

よろしくをお願いします。

資料の中に防災連続講座の案内がありますが、5月31日から11月29日まで連続6回の講座を設定することになりました。

その間に特別講座と称しまして、避難所となった陸前高田市のオートキャンプ場の支配

人の方の講演が6月26日日曜日の10時から12時まで特別講座としてあります。

その前に5月31日に第1回目を開催しまして、61名が参加し、その後のアンケートでも、非常に良かったというお声をいただきました。

今後、7月5日、26日、9月27日、10月25日、11月29日と続けて連続講座を受講したいというアンケートも多数来ております。

簡単ですが、以上です。

#### 【庄嶋委員長】

本年度取り組まれる予定と、4、5、6月の途中まで終わった事業もあるので、どのような様子であったかということをご報告していただきました。

今、報告していただいた部分で何かご質問等あればお願いします。

感想でも結構です。

率直な感想なのですが、防災連続講座、非常にスピーディーにやられているなと感じたのですが、勿論タイムリーなものではあるのですが、講座を設定して、しかも連続講座で素早く設定して始めているというのは、この5月31日の時点で第1回が開けるといのはすごいスピーディーだなというのを感じられます。

率直にすごいなと感じました。

これは開くにあたって何か秘訣はあったのでしょうか。

#### 【NPOクラブ（勝又）】

コーディネーターの中でもやはり、今やらなければ、というのがありまして、最初まず市の自治防災課の方をお願いして、その間に準備をしようと思っていたのですが、全体を通してお願いしている講師が5月でも大丈夫だということで日程を設定しました。

実際日程を設定してからは、広報の時間はとれたので、講座として始められて本当に良かったと思います。

#### 【庄嶋委員長】

人数も非常に多く第一回目に参加されたということなので、本当にタイムリーでした。

他に皆さんご意見ありますでしょうか。

#### 【國生委員】

ワンデイシェフの試みで、コミュニティづくりにつながるように支援していくというお話がありましたが、今の報告では、毎月勉強会にコーディネーターが1名参加しているということでした。

それ以外の支援というとどんなことされているのでしょうか。

#### 【NPOクラブ（勝又）】

勉強会というのは、その場だけのことではなくて、いろいろな相談をしながら準備に関わっているということです。

ただ、団体として出来上がっていますので、それはセンターの事業ではなくて団体が進めていくことですので、立場としてはサポートという形で、勉強会に行ったり、その前後

で相談や、これからセンターで広報することなどあればサポートしてしていきます。

**【國生委員】**

そうであればいいなと思います。

やはり地域づくりサロンから生まれたとはいえ、自立していただくことが大事だと思いますので、丸抱えのようになってはいけないなと思いましたので質問しました。

**【庄嶋委員長】**

他に何かありますでしょうか。

**【相川委員】**

自治会のことばかりで申し訳ないのですが、今年度また自治会関係の人が集まって懇談会をやるとなっていますが、目的も無くやっていたら早晩飽きられると思うのです。

お互いに顔見知りになって、その中から何かできるか、そういうのを待つという方法もあるでしょうけれども、猿橋委員が言っていましたけれども、地域活性化は自治会関係で言うならば、こういう方向に2、3年経ったら持っていきたいのだというものを秘めていないと、自然消滅的なものになる恐れがあるので、我々も取り組まないといけません、その辺の活動をやりながらうまくリードする方法というのは何か考えていますか。

**【NPOクラブ（勝又）】**

参加された自治会の方たちの中から、みんなで考えていこうという流れになればと思っています。

**【相川委員】**

一般的に呼びかけて、多くの自治会に集ってもらい、それからいろいろな話の持っていき方を考える作業グループ的な幹事会も集めて話し合いも持ちます、といったようなことは決まっていたか。

**【NPOクラブ（勝又）】**

皆さんのお話の中では、むしろテーマを決めないで話していく中で出来上がっていくのではないかというメンバーの方たちのご意見でした。

**【國生委員】**

しばらくの間は、どんどん懇談会風に、いろいろな話をしていく、ということが最初にあって、いろいろな話をやる中から何か出して行こうという感じだったと思います。

**【相川委員】**

それでは、私の方がかえって焦り気味でした。

**【國生委員】**

準備会のような、事前に考える会を作ろうというところで、手を挙げる予定でいたのですが、確か相川委員が、まだその段階ではないということでした。

**【NPOクラブ（勝又）】**

ただ、防災講座で、民生委員が30数名出席していて、受付でうちの自治会は出ていますか、というお話もされていました。

各地域、自治会のエリアやあるいは中学校区では、そこでの連携がすごく大事になってくるので、防災講座などをやりながら、民生委員の方と自治会の方が向き合っていていただけたらいいなと思います。

#### 【事務局（宇田室長）】

補足させていただきたいのですが、いま相川委員おっしゃった目的もなく集まっていると早晚飽きられるというのは、すごく重い言葉だなと我々も感じております。

何回か自治会の集まりがあったときに、何か自治会の運営で困っている面も確かに議論のテーマには上っていましたがけれども、それよりも自治会が防災活動や、要援護者の通院、相川委員の自治会で先駆的に行っている事業、あるいは要援護者の買い物支援の取り組みを考えたいというような、これから何か自治会活動の試金石になるようなテーマが出てきたのは、私は感じていました。

何か自治会で特定の取り組みが行えるような機運が、例えば、市民活動団体が先駆的にやられるとしたら、そこと自治会がタイアップするようなコーディネートの方というものは、まさにみんなで地域づくりセンターの真骨頂の業務になってくるので、そういった団体へのヒアリングを通じて、自治会の活性化とNPOを含めた市民団体の連携、タッグが組めるようなことも模索していきたいなど、まだ漠とした段階ですが、考えてはいます。

#### 【庄嶋委員長】

ものによっては、話題の中に出ていって、こういう取り組みをしていますよ、という話が一方であって、これは参考になるというのがあれば、その場でなくても、その後、場を変えて、取り組みを詳しく教えてもらいたいというのものもあるでしょうし、みんなが共通して悩んでいる課題は、次回テーマとして取り上げる、というようなやり方もあります。

今のところは、3回やったところで模索中という部分はあると思いますが、継続していくことで、出席者が減っていない、増えているということから、この地域づくりサロンというものに意味を感じている方が増えてきているのだと思います。

だから、これまでサロン風な場を設けて、意見交換するということを行政が果たせていなかった機能なので、そういう意味ではセンターがやることで率直に情報交換して学びあったり、取り組みの解決の手掛かり見ていくというのは、すごくセンターの果たしている役割としては、大きいかなと私は感じています。

他にどうでしょうか。

#### 【大橋委員】

福祉作業所「大きなテーブル」ですが、すごくいい取り組みだなと思います。

障害を持った方たちが何かいろいろなものを作っても知れ渡らなかつたり、小さなところで一生懸命やっても、これだけで生活の糧になるかといったら難しい問題ですけれども、我々駅前商店街も、実は空き店舗対策で困っているし、例えばそういうところに将来、障害者の方たちが出てきて、作業所の中だけではなく、商店街の人たちと一緒にやってやれるような土壌を作って、障害者たちも十分生活していけるような仕組みを作ってあ

げて、商売として成り立つような活動を、商店主と一緒にやっていけるような形に徐々になっていければいいなと思います。

それに対して、今回のような販売、紹介することは、すごくいい取り組みで、そういうきっかけで皆さんに知れ渡っていくことによって、障害者の方と我々商店主が一緒になって、共に商店街というものを作っていければ、すごくいい街になるのではないかと思います。

ずっと年を重ねて、障害者の方たちが市の支援で生活するというのは大変なことだと思うのです。

障害者の方が、将来自立できるような取り組みをセンターと一緒にやってやればなと感じました。

すごくいいきっかけの取り組みではないかと思います。

#### 【庄嶋委員長】

大橋委員の意見について、何かお感じの方、いらっしゃいますか。

#### 【岩井委員】

私も先週の土曜日、勝又さんから資料をいただいたのですが、その資料の中にいいことが書いてあります。

「高齢になっても安心して暮らせるまち、必要な仕組みを作るには」ということで、この中でも具体的に書いてあります。

読み上げると、「空き店舗を活用してフリースペースやコミュニティカフェを運営」、「小学校と連携して多世代交流の遊びの広場事業を実施」、「空き家を利用した日中独居の高齢者の居場所づくり」こういった話が具体的にあり、23年度のセンターの重点テーマが「安心して暮らせるまちづくり」となっています。

四街道の場合は65歳以上の高齢者が全体の23%、2万人を超えてもおりますから、高齢者の居場所がないということで、こういった具体的なことをどんどん進めていった方がいいのではないかと思います。

#### 【庄嶋委員長】

「大きなテーブル」は、センターの大きなテーブルを活用して逆転の発想といったら変ですけれども、オープニングイベントのときに堀田力さんが「テーブルが大きすぎる」といったものを、逆にこういう形で活用するというの、なかなか面白いと思います。

それが、佐倉からも人が来られたり、反響もあったり、今、大橋委員が言われたような展開で、知られるようになって、それが街の中に出ていくことになると、これはすごい展開になると思います。

勿論センターの方から働きかけるというのはあると思いますし、大橋さんの方が商店街につないでいくというのもあると思うので、そういうものを生み出す部分もあるなと感じます。

#### 【江口委員】

写真展は、県のNPO月間の流れの中でやられています。

私、今年の写真展を見ていて、どうしてセンター内で実施するのだろうと、もっと市民に見てもらったらいいと思いました。

ホールのロビーなどを借りてやったらもっといいのにといいながら見ていたのです。

センターの枠の中で留まらずに、市の施設を使って実施したほうが、もっと市民に広がるだろうと思うし、県で集めたものだけではなくて、センター独自で呼びかけて集めた写真も加えて、広くやってもいいのかなと思いました。

それと「まじゅりんこ」の話なのですが、4月にこんなことがありました。

和良比地区からお母さんがお子さんを連れていらっしゃいました。

「まじゅりんこ」へは駅の向こうから来るので遠いわけです。

さらに和良比地区から関係のない人たちが子ども連れて二組来たのです。

3年生くらいのお子さんともう少し下のお子さんでしたが、少し親しくなったら、偶然ですが、二組とも江戸川区から四街道市に転居してきたということだったのです。

江戸川区から二組も同じような人が来たのは、何故だろうということで聞いたところ、江戸川区というのは子育て環境についてものすごく整っているのだということをやっと小耳に挟みました。

江戸川区にいた人たちにしてみれば、四街道に子どもたちが安心して預けられるところがあるのではないかなという、そういう思いで来られたのだろうと、あとでその話を聞いて思って、もう少し深い話を聞いておけば良かったなと実を言えば思いました。

今考えて思うのは、私たちがまちづくりを担っている主体がもう少しそういう情報をキャッチして行って、それをコーディネートしていくということをや、どんどんやっていくことが大事だなと、あとで思ったことでした。

ですから、まずネットワークづくりの中で、そういう課題意識をみんな持てるように、深めていくという、ただ単にコーディネートするだけではなくて、コーディネートのなかでどういうコーディネートの仕方したらいいのかということやみんな考えていけたらなと思いました。

#### 【庄嶋委員長】

ありがとうございました。

いろいろな形でご意見が出た中で、昨年度、半年以上やってきて課題として上がってきたことや、それから今年度の取り組みの中で段々改善していけばいいですけども、その中でいくつかみんな議論した方がいいかなというのがありました。

先ほども言いましたが、センターに置いてある資料がもっと持って行かれるようにするためにはどうするかということです。

この点について、基本的なことの確認なのですけれども、先ほどの勝又さんのご説明をもう一回ご説明ください。

#### 【NPOクラブ（勝又）】

センターに置いたチラシを持って行っていただくということにはならないのですけれども、センターから団体の方の情報発信のサポートということでは、センターニュースに団体の情報を載せるページを作りました。

センターニュースは自治回覧などに回しているもので、回覧を通して見ていただけるとのことです。

**【庄嶋委員長】**

一つの発想として、チラシとかは主ではないかもしれないですけど、センターからいろいろ発信される場所に何か載るようになれば、センターに取りに来なくても見ていくということにはなります。

センターの来場者を増やして取ってもらうという改善策もありますけれども、一方で自治会回覧のように物理的に紙で回すということかもしれないし、インターネット上の何かかもしれないのですけれども、そういうやり方で広く知られるようにするというのが改善策の一つではあります。

その辺を踏まえた上で、何かみなさんどうでしょうか。

ここでせっかく情報が発信できると持ってきたけれど、なかなか持って行かれていないよというご感想があった訳なのですが、改善策としてお知恵があればお願いします。

**【工藤コーディネーター】**

一つの事例としてチラシが大量にないですかという問合せがあったのが、自然同好会のあるメンバーの人が鹿放ヶ丘ふれあいセンターで150人ほど集めて講演をやる中で、その時に自然に関するチラシはセンターにありますので、是非そこへ行ってみたいとということで14、5人がいらっしやいました。

資料が足りなくなりましたので、社会教育課に自然に関するチラシをいただいて陳列しましたが、それも今は無くなりました。

そういう事例があります。

それともう一つは、今度は生涯大学の卒業生を対象に福祉センター3階で、9人ほど集まる機会があり、自然同好会の方の紹介があり、早速4、5人来られて、それで資料が足りなくなりましたので、コピーして配布したという状況はあります。

**【庄嶋委員長】**

つまり各団体とかが講座とかやるときに、PRをしていくというのも一つの方法であるということですね。

他にどうですか。

いろいろとアイデアを出した上でセンターの方で使えそうだと思うものあれば、採用してもらえればと思います。

今センターに置かれているチラシが、センターに来ないと持って行けない状態です。

仙台宮城のサポートセンターでは、ネット上にチラシを掲載して、そこから取れるようにしているとかいうのがあると思うのですけれども、ここでそういうやり方すると勿論ネッ

ト環境を使わない人がいるのですけれど、使う人にとってはわざわざセンターへ行かなくても、ネットから同じチラシがそのままもらえるのだったら、そこから取るというやり方もあると思うので、そのような方法もあるのかなと思います。

勿論そのためには、今のところセンターとして情報発信媒体、ネット上の媒体というのはブログとツイッターということです。

**【NPO クラブ（勝又）】**

あとは市民活動情報サイトです。

**【庄嶋委員長】**

自分たちで団体として掲載しておけば、例えばサイトだったらダウンロードできる。

サイトに関しては、それぞれの団体が情報を載せた上で、それぞれが情報発信しようとしなければというのがあります。

ブログの方はセンターとしてのいろいろな情報を、皆さんに知ってもらいたいと発信しているスタイルです。

それは若い人に関しては、直接来てくださいよというより、情報を伝えたいということならネット環境を活用するというのも手です。

**【大橋委員】**

チラシ関係は、全部ダウンロードできるような形には今のところはないのですか。

**【NPO クラブ（勝又）】**

市民活動情報サイトに載せるのは現状難しいです。

**【事務局（齋藤副主査）】**

いまのお話は全部受け身なので、ターゲットをしっかりと絞ったうえで、そこに的確に情報を発信していかないといけないなと思います。

人が集まるところに、その情報を団体にお知らせする、チラシを配布する機会を得るといような、受け身ではない積極的な動きは必要ではないかと思います。

その仲介として、センターが情報提供することはできると思います。

**【庄嶋委員長】**

現在のところセンターから情報を発信していくときに、ネットや、センターに来てもらわないと見られないものではなくて、例えばメールなどで、一斉に情報を送信する態勢は整っているのですか。

**【NPO クラブ（勝又）】**

メールマガジンがあります。

**【庄嶋委員長】**

メールマガジンはある。

登録している団体というのはどういう基準で選んでいますか。

**【NPO クラブ（勝又）】**



今のところは市民活動情報サイトに載っている団体や、個々でヒアリングして、メールアドレスを聞いたところなどです。

**【庄嶋委員長】**

ヒアリングをしたところが全部市民活動情報サイトに載っているわけではないので、そこは別として情報発信しているということですね。

フェイスブックは活用していませんか。

**【NPO クラブ（勝又）】**

ツイッター、フェイスブックも始めています。

**【庄嶋委員長】**

フェイスブック上でみんなで地域づくりセンターとしておけば、結構そこで次にこんなイベントやりますとやっておけば友達が集まってきます。

**【NPO クラブ（勝又）】**

ツイッターも始めたばかりです。

**【大橋委員】**

フェイスブックも共通の興味をもった人が集まるから、ピンポイントでやるといいですね。

**【庄嶋委員長】**

私の住んでいる大田区で、今回の被災地支援の関係で、被災地支援のためのボランティア調整センターが区と区民の協働で立ち上がったのですが、ここはIT部会という分科会、勿論今回のように何かボランティアしたいということで集まって、それぞれの得意分野で分科会をつくって、IT分科会ができて、彼らが情報発信をいろいろ考えて、フェイスブック上での情報を活用したりしているのですけれど、それはやはりかなりの人が友達登録をしているので、今度こういう取り組みをやりますよというのは情報が入ってきます。

逆にフェイスブック上で情報も拾っているのが、被災地の方でこんな支援をしている人を探しているという話が来たときに、実際に宮城県の大学生、就職活動をしている人たちが、家が流されたりしているのでお金の面で大変ということで、無料で泊まれる場所をとることを言ったときに、大田区内の公共施設で出せるところがありました。

それをその情報をフェイスブック上で拾ってきて、それでは是非ということをつないで、実際に1週間、無料で泊まってもらって、しかも地域分科会という別の分科会が朝ご飯などを地元の人たちが作って提供するといったことでお世話したということがあります。

それは元はというとフェイスブック上の情報から来ているということで、いろいろな活用の仕方がある。

その辺の可能性も追求していただければと思います。

時間の関係があるので、あともう一つの話で、先ほど情報交換、意見交換で、例えば子育て系、あるいは福祉系の話をやったらどうかという話があるのですが、これについてはサロンという形で既に実行している部分が、非常に先駆的だと思います。

そこで、そのテーマを増やそうということになると、実際に労力的な面で、いろいろ課題があるのかもしれないのですが、逆に言うとセンターとしては、例えばこの分野の団体が集まってやるとしたら、逆に団体側の方々がどういうふうに動けばできるよとかいう、そういう提案はありますか。

**【NPO クラブ（勝又）】**

今まで地域づくりサロンを開くにあたって、分野ごとの団体の情報交換会を開いたらよいということは、まず考えられることなのですけれども、それをどこからやっていこうかなというところでは、コーディネーターが団体にヒアリングに行ったり、あるいはセンターにいてこういうことを情報交換したいという声が集まったときに、それでは情報交換会にしようかというような流れなので、そういう意味では団体の方から声を出していただくとか、一緒に考えていただく、地域づくりサロンをするということについても一緒に考えていただくというのがやり易いかと思います。

**【庄嶋委員長】**

実際は、地域づくりサロンを開催するというときにセンターの側として発生する業務というのは、チラシでの広報、当日のコーディネートなどいろいろあるわけですが、どういう業務があって、どの部分を団体の方が主導したりすると割と直ぐできます、というものがありますか。

**【NPO クラブ（勝又）】**

実務的なことはセンターでやっていくことになりますので、どういうことを話し合いたいとか、あるいはテーマをどうするなど、企画のところをお寄せいただければ、あるいは一緒に考えていただければと思います。

あるいは、自分たちやるから、広報や、ここの部分をセンターにやってと言われれば、直ぐにでもできるものもあります。

広報の期間や、参加する団体をつなぐ期間というのは、どうしても相当の期間がかかると思います。

「大きなテーブル」をやるのでも、23年度の事業でこういうのをやったらというのを、月2回のコーディネーター会議で、提案したり、話し合ったりしたのが、3月でした。

そこからどのようにやろうかということで、知っている団体から、まずどういう状況か、どういうことをやったらいいかということや、担当課にどういう団体があるかヒアリングをする、といったような準備をしていました。

**【庄嶋委員長】**

センター側で実務もある中で、ただゼロから全部やってくださいとなると業務量もあり大変だということもあるので、やはり皆さんの方からこのテーマでやるというときに、企画を練って、一緒に相談して、人集めをしてというのであればできるということです。

**【NPO クラブ（勝又）】**

中心になっていただける方が何人かいらっしやったら、例えば福祉の分野や環境の分野

ではコーディネーターは専門ではないので、活動していらっしゃる何人かの方が中心になっていただくというのが、一番良い形で出来ると思います。

**【庄嶋委員長】**

そういうタイプのセンターの方から提起してゼロから作ったタイプのサロンではなく、地域づくりサロンの幅を広げて、皆さんの方から提案して、しかも言うだけではなくてコアメンバーを集めてくるようなことをやって実現するタイプのサロンも出てくると、幅が出てくるかなと思います。

その辺は委員の皆さんが中心になって仕掛けていただければ、幅が広がるかと思います。

センターの話については、そろそろ終わりにしますけれども、何か言っておきたいこととかありますか。

**【江口委員】**

今言われたような形で、団体の人たちが子育て支援のネットワークを作りたいと、ひとつ私たち方でこの企画を上げましたので、コーディネートしてくれませんかというような話の場合でも、特に企画書などは要らないのですか。

ざっくりばらんにいって話をすればいいわけですか。

そうするとその辺から意図を汲んでいただいて、あとで話をしながら進めていく形になりますよね。

**【庄嶋委員長】**

実例をつくっていくということです。

**【國生委員】**

地域づくりニュースの中で、地域づくりサロンは、こういうためにもありますというような形で示していただけると、手を挙げる人もいるのかなと思います。

**【NPOクラブ（勝又）】**

地域づくりサロンについては、チラシなどでお知らせしたりとかはあるのですが、私たちもやりながら地域づくりサロンというのは、こういう形になってきたというところがあるので、今おっしゃっていただいたように、こういうふうなことも出来るよというのは、すごくいいことだと思います。

**【庄嶋委員長】**

センターの話は以上とさせていただきます、もう一つ残っているのが、今までの話はみんなで地域づくりセンターの話なのですけれども、そのもとになる「みんなで地域づくり指針」に定められているいろいろな施策があります。

その施策の進捗状況ということについても見守っていこうというのが、この委員会の役割として定められましたので、そのような部分をご説明いただければと思います。

これは今の施策の中で実行する部分としてセンターが担っているのがかなり多くなってきていると思いますので、重複する部分は省略して結構ですので、あとは逆に市の方で担当していることとかを中心にご説明いただければと思います。

#### (4)「みんなで地域づくり」推進のための施策の進捗状況

##### 【事務局（齋藤副主査）】

追加でお配りした資料の「みんなで地域づくり」推進のための施策の進捗状況という資料をご覧ください。

「みんなで地域づくり指針」には、個別の施策として5本の柱を設けてあります。

各柱の中で、個々の具体的な施策を述べております。

委員長からもありましたとおり、指針に基づいてみんなで地域づくりセンターが設置されているということで、具体的な事業の展開などについては、多くの部分で重複するところがありますが、今回の説明では具体的に市の方で行っている事業についてご説明させていただきたいと思っております。

まず1ページ目、「市民活動を活発にする施策」ということで、先程来お話がありますが、施策1①「地域づくり情報の発信・充実」に関する施策です。

センターの事業については先ほどからご説明させていただいておりますが、資料2ページ、市では国や県から届く情報、補助の情報であったり、助成の情報というものにつきましては、市の窓口を設置するとともに、みんなで地域づくりセンターの方に情報提供を行っております。

また市民活動情報サイトにつきましても、現在、みんなで地域づくりセンターに地域の情報も集まってきておりますので、運営をセンターに委ねまして、個別のサポートを行っているところです。

以上が22年度の内容でございます。

今年度につきましても、前年度と同様に、その定着を図っているところです。

資料3ページ目をご覧ください。

市民活動情報サイトにつきまして、先日サイトを運営している担当者と打ち合わせをいたしまして、このサイトが開設されてから数年経っており、また、見直しもされていない状態にありますので、より地域づくりに役立つサイトの構成にできないかといった形で検討をしております。

当委員会、また地域づくりセンターにいらっしゃる方々、団体のご意見を頂戴しながら、皆様にとって役立つサイト運営をしていきたいと思っております。

また、RSSといった情報提供の方法も県の方から示されております。

県の助成金の情報やイベント情報などが自動的にサイトの方に流れるといったシステムでございます。

こちらの導入につきましても、今年度、来年度くらいを目処に進めていきたいと考えております。

また、市政だよりへの地域づくり情報提供の充実も図っていきます。

参考資料でご確認いただきたいのですが、去年、また今年にかけて地域づくり関係の市政だよりに載った情報をお配りしておりますが、地域づくりコーナーといった類ではないの

ですが、内容によっては1ページ、半ページといった紙面構成、市の秘書広報課とも相談させていただいて割いていただいております。

本年度につきましても、地域づくりに関する情報を積極的に提供していきたいと考えております。

また、昨年採択されました地域づくり助成事業の個々の事業につきましても、ご要望があった団体につきましては、積極的に市政だよりで広報しているところです。

施策1②、「地域づくり体験講座の開催」についてです。

昨年度については、体験講座という形での開催はありませんでしたが、9月にオープンしたみんなで地域づくりセンターで自治会情報交換会といった形でサロンを開くなかで、先進的な活動をされている情報、事例についてご紹介いただいているところです。

また、地域づくりリーダー養成講座として、昨年度は「コミュニティビジネス」をテーマに3回講座を開いております。

4ページ目をお開きください。

施策1③「地域づくり補助・助成の見直し」です。

22年度につきましては、個別の活動、展開はありませんでしたが、今年度はコミュニティ整備事業の検討の中で、地域づくり活動助成事業を始め、各コミュニティ関連の補助、助成についても検討してまいりたいと考えております。

施策1④、「地域づくりの事例報告会の開催と事例集の作成」、こちらもセンターで行っているサロンの形式をとりまして、事例の報告を開いております。

また、この蓄積、様々な地域づくりに役立つ情報、事例が集まった場合に、事例報告会といった形で開催するという方法もあるかと考えられます。

それについてもまたこの委員会を通して検討してまいりたいと思っております。

5ページ目、施策1⑤、「市民活動センターの設置」です。

昨年度9月にみんなで地域づくりセンターがオープンし、コーディネーター3名を配置したうえで、地域づくり活動を展開しております。

6ページ目をご覧ください。

みんなで地域づくり指針に定めます大きな柱の2番目、「市民活動と市政が協力する施策」です。

この施策についても、みんなで地域づくりセンターで地域づくりサロンなどを展開していく中で、市民と市が協力できるような事業についてサポート、コーディネート的活動を行ってまいります。

施策1①「地域づくりにつながるような事業の実施」について、市の活動においては当課と四街道サクラソウの会との協働事業でサクラソウの普及活動を行っており、展示会や植え替え講習会を昨年度、今年度と行っております。

(2) 10万本の桜事業については、四街道順天ライオンズクラブとの協働で昨年度も10本の桜を亀崎地区に植樹を行いました。

また、四街道にあります4つのライオンズクラブとの間でアダプト協定、また亀崎地区の環境美化、保全について検討を行った経緯がございます。

このアダプト協定についてですが、市民にとって身近な公共施設、公園や道路などを環境美化、保全を目的として、市民が里親となってボランティアで管理する制度です。

亀崎地区への桜の植樹についてライオンズクラブとの間で検討を進めていたところですが、地区のご同意が得られない状態でございますので、現時点ではまだ進んでいないところです。

その他、今年度につきましても、引き続き桜の植樹については、また新しい候補地を含めて検討を進めていくところです。

施策2②、「市民参加で計画をつくり市民活動と協力して実施する仕組みの整備」について、当市で施行されております市民参加条例に基づいて、各施策の様々な計画段階、実施段階、見直し段階において、市民が参画しやすい体制づくりに努めているところです。

8ページ目をご覧ください。

施策2③、「協働事業提案事業の整備」です。

昨年度第3回目の委員会で説明させていただきましたが、昨年度、市民団体の提案により実施できる事業の拡大をねらった、(仮称)市民提案事業基金の検討を行ってまいりました。

市民税の1%を限度とした基金の設置を行う事業ですが、今年度、「みんなで地域づくり」の考え、市民協働の更なる推進を図っていくための枠組みであったり、市民の実行力が生かせるような制度になるよう検討を進めていくところです。

9ページをご覧ください。

みんなで地域づくり指針の大きな柱の3番目「市民協働プロジェクト」です。

昨年度、当委員会でもピックアップしていただきました地域にある重要な地域課題の把握を、今年度につきましても行っていきたいと思っております。

みんなで地域づくりセンターで開かれております地域づくりサロンや相談などともあわせまして、地域の重点的な課題とされるものについては、当委員会の協力も得ながら、プロジェクトとして立ち上がった場合は展開していきたいと考えております。

10ページをご覧ください。

施策4「みんなで地域づくりの施策を検証する仕組み」についてです。

当委員会が立ち上がりまして、昨年度第3回目でも議論がございました、①地域づくり活動助成事業の審査、②みんなで地域づくりセンターの事業のチェック、③みんなで地域づくり指針に定められた施策のチェック、④市民協働プロジェクトへの協力、以上4つの機能を持ちあわせた委員会ということで、みんなで地域づくりに対する施策を今年度につきましてもチェックを行っていただきたいと思いますと思っております。

11ページ、施策の大きな柱の5「みんなで地域づくりの推進体制」ということで、みんなで地域づくりセンターにコーディネーターを配置し、NPOクラブの育成のもと、地域づくり推進体制を図っているところです。

また市民活動推進室において庁内との連携を図りながら、センター、市役所、市民団体が連携して地域づくりを行っていきたいと考えております。

以上です。

**【庄嶋委員長】**

ありがとうございます。

昨年度、今年度に関しまして施策の進捗状況、それから今年度取り組むことについてご説明いただきました。

皆さんからセンターについては先ほど議論しましたが、市が中心になってやっている施策についてご質問やご意見ありましたらお願いいたします。

**【相川委員】**

地域づくりリーダー養成講座についてですが、何人くらい受けられるか分かりませんが、リーダーというのは養成できるのでしょうか。

**【事務局（齋藤副主査）】**

リーダーの定義というのがあると思いますが、市民活動を始めたいという方が、いわゆる広い意味ではリーダーになり得る方だと思います。

団体の長に立つ人がリーダーなのかというと、そうではないと思っています。

個々が市民活動に対してどう取り組んでいくかという意識を付けていくことが大事だと思うのです。

講座のネーミングの問題もあるかもしれませんが、そういう意味で、そのきっかけ作りとなるための講座であると考えております。

**【相川委員】**

実際開催して、これはリーダーが育ちそうだとか、何か手応えありますか。

**【事務局（齋藤副主査）】**

講座の参加者の方で、私たちが初めて会った方がセンターに足繁く通っていただいているといったことがあります。

何もきっかけがなかった方が、センターに通ったということ自体でも大きな一歩なのかなと感じています。

新しい事業として展開することが一番なのかもしれないですが、そうなるにはきっかけがないと始まらないのかというのはあります。

**【相川委員】**

狭い範囲のリーダーという捉え方ではないということですか。

**【事務局（齋藤副主査）】**

一歩を踏み出すきっかけ作りになればというところで開いている講座です。

**【庄嶋委員長】**

講座に関しては、昨年度は「コミュニティビジネス」というテーマでやられたわけですが、今年度についてはこれから検討ということでしょうか。

**【事務局（齋藤副主査）】**

今年度はセンターとの連携を図りながら、課題等もセンターに集まってきていますので、そういったものも踏まえたうえで、講師とテーマ等を検討していきたいと考えております。

**【庄嶋委員長】**

今年度からはシリーズというよりもセンターが中心でこの事業をやるということですね。

そういう相乗効果というか、他の事業とのつながりについて狙いを定めていただければと思います。

他にいかがですか。

**【江口委員】**

すごく興味、関心があることなのですけれども、庁内各部署との連携を図りながら取り組みを行うということですが、例えば先ほどの防災の問題についても、いろいろ動かされたらうし、それからその他の事業についてもやられたと思うのですが、市の各部署との連携で、課題とかあるいはすごく順調にしていることなどあったら聞かせてください。

**【事務局（齋藤副主査）】**

例えば今回開いている防災連続講座であったり、福祉作業所紹介フェア「大きなテーブル」であったり、実際取り組もうとすれば担当課というのは存在するところなのですけれども、個別の担当課が、それを行えば済むものではないと感じているところです。

全体として課題意識を見つけていただくために、センターが半ば先導して事業を展開していき、その中で可能な範囲で担当課に協力をお願いをしていくといった形をとっております。

なかなか庁内で合意形成を図ったうえで事業を展開していくとなると、時間も要するので、ジレンマはあるところなのですけれども、まずは、良い取り組みを実施していくといったスタンスでやっております。

現在、連携をうまく図れているかというところはまだですが、良い取り組みについてきてもらおうというところで事業展開をしているところです。

**【江口委員】**

このみんなで地域づくり指針の一番の根っ子はそこにあると思います。

センターが市民の人たちと一緒にやっているということでは実績がありますが、もう一つ市の各部署との連携については、センターが立ち上がるときからの課題だろうなどは実は思っていたので、そのところ、これからも焦点を当てて見ていかないと、指針が空文句になってもと思っておりますので、一つよろしく願いいたします。

**【庄嶋委員長】**

他にいかがですか。

**【事務局（宇田室長）】**

今、江口委員のご指摘のことで、事務局の発言の補足になりますが、「大きなテーブル」



の話題が出ましたので、「大きなテーブル」でご紹介させていただきますと、「大きなテーブル」に集まっていたいただいた福祉施設の所管するセクションですが、サンワークはサンワーク単独で回っている市の機関です。

そこは直で連携が行えます。

福祉作業所については社会福祉協議会が運営してはいますが、社会福祉協議会の事務局も管理運営は現場の方に委ねているというスタンスでの運営になっていますので、直接、第一福祉作業所、第二福祉作業所、両方こちらの方で折衝させていただきました。

ピクシーフォレスト、赤かぶ園などの障害者施設、高齢者施設については福祉法人が直接福祉事業を運営しておりますので、所管は障害福祉課、高齢者支援課などありますが、市の業務として直接担っているものではないので、そこは範疇外となるので、そちらについても直接こちらの方でアポイントを取らせていただいた、といった部分があります。

市民活動をコーディネートしようとする、直接市の業務として行っている範疇でないから、関係ないよというスタンスを取られてしまいがちだということが一つあります。

ですから例えばコミュニティビジネスの推進を図るうえでも、商工関係を担当している産業振興課は商店街とかはサポートするけれども、市民のビジネスは範疇外というスタンスなので、コミュニティビジネスも市民活動推進の一環として四街道市の行政としては捉えられているという現状があります。

そうなってくるとセクションというのはあるのかなというところではありますが、例えば、自治会の業務、防災に関しては、専ら自治防災課の業務として担当していますので、そこは十分、担当者同士で詰めて、講座を組み立てたり、その講座の講師を自治防災課にお願いするというようなところでは、うまく連携が図れて、理解が得られていますので、あながち我々も連携を図ろうとして図らなくていい部分と、図らないとできない部分と見極めながら進めさせていただいている、そういう段階だということをご承知おきいただければありがたいなと思います。

#### 【江口委員】

いずれにしても、事業を行った場合のフィードバックを担当課などの部署に、きちんと実績などの報告を、直接関係なくとも似たような業務をやっているというところでは、やっていく必要があるのかなと思います。

それはやられているわけですか。

#### 【事務局（宇田室長）】

例えば「大きなテーブル」ですと障害の担当者であったり、高齢者の担当者が出向いてくれておりましたので、大盛況の人数を見て、みんなで地域づくりセンターにしてやられたな、と感じてはいるのではないかと感じております。

#### 【江口委員】

なるほど。

#### 【庄嶋委員長】

なかなかそういう意味で、行政がこれまでやらなかったところを、特にセンターはやっているような部分があるので、人によっては勝手に自分の担当分野の事業を行うことに、違和感を覚える場合もあるでしょうが、逆にこんなアプローチをとるとうまくいくんだというものを当分の間はつくって行く必要があるのだらうと思います。

**【大沼委員】**

今話を聞いていて私が感じたことは、センターが開設されて一年近くになって、お役所仕事のものに絡ませないで出来るもの、難しいことを抜きにして直ぐに取り組めるような場所なのかなという印象があります。

いろいろなことにチャレンジできる、みんなで地域づくりセンターというネーミング自体も、取り組みやすいことのような気がしています。

気になったワードが、重要な地域課題という、市内に広く共通する地域課題に、何の難しいこともなくみんながすぐ取り組めるような、取り組んでいける場なのかという感じがしています。

**【庄嶋委員長】**

お聞きしたいのは、ボランティアセンターとの関わりで、どういうふうにみんなで地域づくりセンターは見られていますか。

**【大沼委員】**

共通部分はたくさんありまして、ボランティアセンターは、ボランティアに関わることのみで、みんなで地域づくりセンターの方はボランティアにかかわらず、皆さん活動、グループごとにいろいろな活動をしています。その中でもボランティアセンターの中で活動している団体も、みんなで地域づくりセンターの方へ行ってどんどん活動していますし、共通部分はたくさんあるので、みんなで地域づくりセンターの方で、今回予定されている夏休みに小学生にボランティア体験をしてもらおう企画では、小学生が取り組めるようなボランティアありませんかというお問い合わせに対して、ボランティア団体を紹介するなどコーディネートすることが出来るので、別々とかではなくて、本当にこれから一緒になって出来るものもあると思うので、お互いに相談し合いながらやっていったら、相乗効果やいい面が出てきていいかなと思います。

とかく他の市でもありますが、似たようなセンターができると敵対心ではないですが、お互いに仲良くないというところも聞きますので、その点では四街道はお互いにうまくやっているよ、ということが外にもアピールできるといいと思います。

どういう風な形でやっていくのかは話し合いながらだとは思いますが。

**【庄嶋委員長】**

その辺連携を深めながらということですね。

時間の関係もあるので、残りの議題、報告事項、助成事業についてお願いします。

**【事務局（齋藤副主査）】**

資料4をご覧ください。

昨年度3月10日に審査していただき、採択していただきました地域づくり活動助成事業の一覧でございます。

現在、市制30周年記念事業の特別枠の3事業につきましては、すべて申請が出されまして、額が決定している状況です。

既にサクラソウフェスタにつきましては4月17日に開催され、その他2事業につきましては、今年度の秋に予定がされております。

裏面をご覧ください。

通常の枠で採択されました7事業につきましてはの申請状況です。

なお、「よさこい道2011」につきましては、震災の影響で4月に予定されていたところですが、被災者への配慮等も踏まえまして、資料では未定となっておりますが、30周年記念事業で採択された「音楽フェスタ」の2日前、9月23日に決定したという報告がありました。

その他、現在未申請の団体もありますが、今後この申請がなされることと思われま

す。また、年度末に当事業についての報告をさせていただきたいと思

います。以上、報告でした。

#### 【庄嶋委員長】

助成事業ということで、我々の方で審査したあとに決定されているということですので、状況を把握していただければと思います。

あと、その他ということで、日程のことですか。

#### 【事務局（齋藤副主査）】

それではもう1枚の追加資料を配布させていただいた、みんなで地域づくり推進委員会の開催予定です。

皆様にお諮りをしてはおりませんが、おおよそ資料に記載しました日程で、みんなで地域づくり推進指針に基づいた施策のチェックも踏まえて行っていきたいと考えております。

次回は、上半期が終わった時点で、振り返りを行いたいと考えております。

また、第4回目につきましては、昨年度と同様「みんなで地域づくり活動助成事業」の審査、その前に、例えば重点課題について検討するような場を設定したり、また、みんなで地域づくりに関するご提案が皆様からあった場合に、開催していきたいと考えております。

以上でございます。

#### 【庄嶋委員長】

年4回の予定で進めていくということで、昨年度大体のイメージとしては出てきたので、資料のような割り振りになっております。

よろしいでしょうか。

先ほど今年度、市の方で取り組まれる施策の進捗と関係してくるのですが、どうしても第1回については、昨年度の状況を聞いて今年度何やるかということで、審議に時間がか

かってしまいますが、10月の回については、上半期の事業報告は一つあるとして、もう一つはこれから市として具体化しようとしている施策について案を提示していただくなり、ゼロのものかもしれませんけれども、この委員会も実際市民参加の場ですので、具体的に仕組みを作るときに、こんなことに配慮したらどうかとか、そういう議論ができる場になるといいと思います。

先ほどの市の施策の進捗状況を見ても、助成金や提案制度については、去年、実質的にはあまり進んでいないことでもあるので、特に助成事業については一度我々審査を一回やりましたので、大体様子は分かったと思うので、例えば具体的にどの辺が問題であるとかなど、そういうのを踏まえた議論が出来ると思うので、次回の10月の回については、例えばそういった議論が出来たらいいのではないかなと思っております。

時間の配分が悪くて、最後の方駆け足になったので、何かまとめて皆さんの方で、ご意見とかありますでしょうか。

それでは、全体の「その他」で何かありますか。

皆さんの方で、何かこの場でお知らせしたいこととかありますか。

#### 【江口委員】

コーディネーターの工藤さん、この9か月間のコーディネーターとしての感想をお聞きたいなと思います。

私たちとどう関わったのか、つまり市民団体とどう関わったのか、そしてそれが運營業務でどうだったのか、そのへんのところ正直なところをお聞かせいただきたい。

#### 【工藤コーディネーター】

昨年の9月にコーディネーターということで拝命を受けまして、今日まで育てていただきました。

本当にありがとうございました。

その中で感じたことといえば、非常に、私、行政の方たちと話を持っていったときに、拒否されるのが大半なのかなという感じを受けたのですが、非常にそういうことは少ないような感じを受けております。

現在、コーディネーターは3人しかおりませんが、情報を密にして、より市民の人たちのためになればということは思っております。

それから、江口委員も悩んでおられる「まじゃりんこ」で、サポーターも不足しているというのも私自身も本当に感じております。

先ほどセンターにチラシをとりに来た方に団体紹介のコーナーを全部案内するのですが、けれども、「まじゃりんこ」についての説明の仕方が、私自身がうまく出来ず、そういうことを未だに反省しながら、何とか人の確保も出来ればとか考えております。

いろいろ皆さんのところで困っていることがあれば、何とかお手伝いが出来ないか、ということを考えながら毎日やらせてもらっています。

よろしく申し上げます。

【江口委員】

ありがとうございました。

【庄嶋委員長】

率直な声を聞かせていただいてありがとうございます。

他によろしいでしょうか。

最後に私の方からあるのですが、私は以前、この四街道市の皆さんと、事務局の市民活動推進室で平成19年から21年度、3年間職員としてお世話になったのですが、22年度1年間のブランクを置いて、23年4月から地元の大田区の非常勤のアドバイザーのような形で再び公務員を兼業しているような状況になりました。

地域力連携協働支援員という名称ですが、同じような市民活動推進室のようなポジションにいまして、みんなで地域づくりのような、市民協働の施策全般がより機能するために、アドバイザー並びにコーディネーターのような形で関わっております。

そのなかで担当しているものの一つで、やはり昨年22年の9月1日にオープンした、みんなで地域づくりセンターに当たるような施設があるのですが、その施設のこともやっているのですけれども、こちらのセンターが非常に市民参加を具体的に経て、いろいろな検討をしてつくって、大体コンセプトもしっかり固めたうえでオープンしたということで、それに沿った形での運営がなされているというのは、今日よく分かったのですが、大田区はその段階を飛ばして、結構役所主導で作ってしまったものですから、何をやる施設なのかといったところが抜けてしまっていて、本当に今日ご報告を聞いたような半年の実績といえるようなものが、大田区の方はほとんどなくて、非常に今日はそういう意味でも参考になりまして、今日いただいたような資料とか、そういうのを大田区の方でも使わせていただいて、あと刺激を与えてそちらの方も立て直しを図りたいなと思っておりますので、そういう形での自治体間の連携も図れたらなと思っております。

それでは、今日は予定より長くなりましたが、これで本年度の第1回のみんなで地域づくり推進委員会を終了したいと思います。

どうも皆さんお疲れ様でした。

(以上)